



# 西小っ子

## 「自律」を促す魔法の言葉

校長 加藤 幸一

南富良野小学校との合同修学旅行に団長として同行してきました。今年は、2日間とも例年にない猛暑の中での旅行でしたが、子どもたちに事故やケガ、体調不良等もなく、無事に帰ってくることができました。昨年は、例えば、食事風景一つをとっても、皆が同じ方向を向いて黙食をするなど、なんとなく味気ない感じがありました（宿泊学習もそうでした）。しかし今年は、新型コロナの5類感染症移行を受け、マスク着用からも開放され、楽しそうに食事をしたり、会話を通じて協力しながら班行動をとったりするなど、以前の景色が見られました。学校行事においても日常が戻りつつあることに安堵しています。来年に向けて、行き先を札幌・小樽方面に戻すことも検討しつつ、しっかりと反省を行いたいと思います。

さて、先月号で「自律」の大切さについて書かせていただきました。今号は、「子どもたちの自律を促す魔法の言葉」を紹介します。

### ☆☆☆ 子どもたちの自律を促す魔法の言葉 ☆☆☆

#### ①「どうしたの?」【子どもの置かれている状況を言語化】

- ⇒ メタ認知に必要な自分の内面に意識を向けさせる
- 子どもが何をしても頭ごなしに叱らないことがポイント

#### ②「どうしたいの?」【子どもの意志を確認】

- ⇒ 自分の置かれた状態を解決するための方法を考えてもらうためにきっかけづくり

#### ③「先生にできることはあるかな?」【問題解決の手助け】

- ⇒ 教師（大人）から選択肢を提示することもOK
- どんな手助けを受けるか、そもそも手助けを受けない等、判断するのは子ども
- 教師（大人）が支援の意思を表明することで子どもが「先生（大人）は味方」と認識

〈出典〉「自律する子の育て方」工藤勇一・青砥瑞人（SB新書）

これは、横浜創英中学・高等学校の工藤勇一校長先生の著書で紹介されている「魔法の言葉」です。この三つの言葉がけを私たちが繰り返すことで、子どもたちはひたすら自己決定をするしかない環境に置かれることになり、この自己決定の機会を繰り返し与えていくと自己肯定感が高まり、自ずと自信と主体性が付いてくる、と工藤校長は述べています。工藤校長曰く、自己肯定感とは「自分は自分のままでいいんだ!」という自分にOKを出す感覚なんだそうです。

前期児童アンケートの結果から、昨年より自己肯定感や自己有用感の高まりが見られる本校の児童たち。ご家庭でも、ぜひこの言葉を参考に（意識して）子ども達を支えていただければ幸いです。

## 暑かった一週間

8月21日（月）の週は、北海道では前代未聞ともいえる猛暑が到来しました。近隣市町村では臨時休校や午前授業の措置が取られました。それほど、北海道の環境も変わってきたのでしょうか。南富西小は冷房を完備しているため、教室にいる分には暑気の影響を受けずに学習をすることができました。全国的に見ても、今年は熱中症についても例年にないほど多数の人が救急搬送されているということです。これからも残暑が厳しくなるという予報もありますので、引き続き、熱中症対策をお願いいたします。

## 自由研究発表会

8月21日（月）第3回参観日として「夏休み自由研究発表会」を体育館で行いました。気温が高く、途中、体育館での実施が困難なため、ホールへ場所を移動するということがありましたが、子どもたちは夏休みの取組みについて発表しました。どれも力作揃いで、意欲の高さが垣間見えました。



## 修学旅行に行きました

8月24日（木）、25日（金）と南富良野小学校との合同修学旅行に行ってきました。天候に恵まれた中、白老・登別の文化を満喫しました。道内も広いので、町によって多様な文化があります。海の町、山の町、大都市、それぞれに「よさ」があります。沖縄を経験した子どもたちですが、白老・登別でもまた違った「よさ」を感じ取っていました。生活の技能を発揮して、北海道の歴史の一端に触れ、2日間を意義深い時間にすることができました。



## 開校記念日（9月1日）

9月1日（金）は、南富良野西小学校の開校記念日でお休みになります。金山小学校、下金山小学校が統合し、平成28年4月1日に開校、現在にいたります。開校記念日にあたり、金山小学校、下金山小学校の昔の様子などを、ご家庭でお話いただけたら幸いです。

## 9月行事予定

日	曜日	学校行事
1	金	開校記念日
2	土	土曜授業（ブルーベリー加工機）
3	日	ノーゲームデー
4	月	環境学習（5年）
5	火	PT 来校
8	金	児童会活動
11	月	臨時朝会 へき地校体験実習～15日まで
12	火	社会科見学（3・4年） 生活リズムチェック週間（～19日）
14	木	後期児童会役員選挙 読み聞かせ
15	金	クラブ
17	日	ノーゲームデー
18	月	敬老の日
19	火	集合学習
20	水	稲刈り体験
23	土	秋分の日
28	木	稲刈り体験（予備日）
29	金	前期通知表配付日 児童会活動
30	土	土曜授業（マラソン記録会）

## 全国体力・運動能力調査 全国学力・学習状況調査

6月19日（月）全校で前期体力テストを行いました。その結果、昨年を上回っていたのは反復横跳び、握力、ソフトボール投げです。昨年の全国平均にとどかなかった種目は、上体起こし、50m走、長座体前屈です。

また、7月31日（月）に、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。南富良野町としては、全国平均、全道平均よりも4ポイント程度上回り、西小としても同様の傾向でした。南富良野スタンダードの定着や、家庭学習の取組、生活リズムの定着等、学校の授業改善のみならずご家庭でもご支援いただいた結果だと考えます。今後とも、学力、体力向上に向けて、改善を進めていきます。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

裏面に、令和5年前期学校評価集計が  
ございます。ぜひご覧ください。

No.	アンケート項目	児童結果		保護者結果		教職員結果	
		7月結果	達成率(%)	7月結果	達成率(%)	7月結果	達成率(%)
①	学校の学習内容をよく理解できていましたか。	3.5	88.5	3.1	78.3	3.1	77.8
②	授業の準備を進めたり、自分の考えを進んで発表するなど、学習に対して意欲的な姿が見られましたか。	3.4	85.8	3.1	77.2	3.3	83.3
③	宿題や家庭学習を毎日しっかりと行っていましたか。	3.5	88.5	3.0	75.0	3.2	80.6
④	先生や友達など周りの人に、思いやりのある言葉遣いを心掛け、楽しく学校生活を送っていましたか。	3.3	81.3	2.9	71.7	2.8	69.4
⑤	しっかりとした返事や挨拶を誰に対しても行っていましたか。	3.7	92.2	3.0	76.1	3.0	75.0
⑥	友だちと協力し合ったり、互いに励まし合ったりして生活していましたか。	3.6	91.2	3.4	84.8	3.3	83.3
⑦	きまりや約束を守り、自分の健康や安全に気を付けて毎日の生活を送っていましたか。	3.8	94.1	2.9	71.7	3.3	83.3
⑧	進んで運動していましたか。	3.8	96.2	3.1	77.2	3.4	86.1
⑨	「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活リズムを意識した生活をしていましたか。	3.5	87.8	3.1	78.3	3.4	86.1
⑩	学校は、地域の人材を活用し、家庭や地域と共に教育活動を推進していると思いますか。	3.7	91.9	3.6	89.1	3.9	97.2
⑪	お子さんは、決められた時間を守り適度にゲームやタブレット等に親しむことができていますか。	3.4	84.8	2.8	70.7	3.0	75.0
⑫	学校は、PTA や地域との連携を図り、地域・保護者のみなさんに信頼される教育活動を推進していると思いますか。	—	—	3.5	88.0	3.7	91.7
⑬	お家で、読書に親しんでいますか。	3.1	76.7	2.5	63.0	3.0	75.0
⑭	自分のよさ（自己有用感）をしっかりと持つことができていますか。	2.9	72.1	3.0	73.9	3.0	75.0

赤字は、昨年度（R4.7月）より結果がさがっているもの。赤丸は、児童、保護者、教職員が一致しているものではありませんでした。平均3以上を達成していると考えています。また、3未満は未達成と考えられる項目です。青字で示しています。

### 保護者の皆様方からの「ご意見」 多数のご意見をいただきました。ありがとうございました。

※プライバシーに配慮し、一部の意見は修正させていただきました。

#### <生活習慣に関すること>

◎習い事の関係で就寝時間が遅くなる事が多いので、朝が起きづらく、食欲も落ちてしまいます。どうしたら良いでしょうか。読書に関しては、本を読むと10分で眠ってしまいます。体質や他にやりたい事が多すぎて優先度も低いので中々難しいです。（中略）苦手な事や嫌いなことを毎日って、すすめる方もストレスですよ。

#### <メディア利用に関すること>

◎タブレット等での動画鑑賞は、時間等のルールを決めているが、まだ、ルールを守っているとは言えない。  
◎タブレット等での動画鑑賞などは、時間等のルールを決めて使うように促してはいるが、つい時間を忘れてしまうことや隠れて見てしまうこともしばしば、それに伴い、読書の時間も少なくなってしまう状況です。

#### <学校の指導方針に関すること>

◎学年が上がると人間関係などでの悩みや学習が難しくなってきたことで意欲が下がってきている様子が感じられることがあります。チャレンジする前に自信のなさから躊躇してしまうこともあり、それはそれで成長過程のひとつかとは思いますが、家庭でも一歩踏み出せるように励ましていきたいと思えます。いろいろありますが、学校は楽しいといってくれているので学校はとてよくやっていただけていると思っており、感謝しています。これからいろいろな経験から学んでいけるようご指導よろしく願います。

◎日々、子どもたちの学びのため、ご支援ありがとうございます。

◎個別最適・主体的な学びが求められています。学級通信等では、活動の様子や先生の感想が記載されています。また、家庭学習や西小ベーシックのルールや形の説明と要望が記載されていますが、学校で子どもたちが、各教科・学習活動で何を課題として、何を学びとしているかを記載するとよい。

◎学校だよりの第3号の、『子どもを主語にした学校づくり』をぜひ進めていただき、子どもたちの知的好奇心ややりたい自分への思いを大事に育ててもらいたい。

◎第7問に関わって、コロナ感染、熱中症等の対策として、学校では具体的にどのような対策や指導をしていますか。

◎他の児童からの言動に悩み、楽しく学校生活が送れなかったり自信をもって活動したりすることが難しかったようです。結果として運動する時間も大幅に減ってしまいました。

## アンケート分析と2学期以降の改善策について

### (1) 社会情勢の変化

コロナが5類へ移行し、これまでの日常が少しずつ戻りつつあります。4年ぶりに自由な都市間、国家間の移動が可能になり、多くの観光客が各地に訪れ、一気に町の様子が変わりました。運動会等の行事が通常開催に近い状態で実施され、気持ちの上でもかつての教育活動に立ち返り始めています。コロナの期間に培われてきたことの再評価が必要です。

### (2) 学校教育の変化

学校教育の変革時期となっています。新しい北海道教育推進計画が新たに策定され、昨今の流れをとらえた内容に刷新されました。また、「生徒指導提要」も12年ぶりに改訂され、「児童生徒ファースト」の内容に変わりました。学校としては、その概念にシフトしていく必要があります。

### (3) 子どもの学び方の変化

「今日、学校で何を習った？」がこれまでよく耳にした言葉でした。これからは、「習い、身に付ける」学習から「自分で望み、探し、見つける」学びに変化していきます。そのためにICT（一人1台タブレット）を効果的に活用することや、「個別最適な学び」、「協働的な学び」へと学びの質を高めていくことが求められており、本校では研修を通して授業改善に努めています。

### (4) 子どもの成果を適切に見取る

項目の中には、児童は頑張っていると考えている項目であっても教職員、保護者がそのように見ていないものが散見されます。「個別最適な学び」を進めるためには、短期間で結果を求めるのではなく、一定のスパンを経て結果に結びつくような学び方や、何度も何度も繰り返して身に付けていく学び方もあります。どこかのタイミングで線を引いて評価することも大切ですが、期間を設定し変容する子どもの様子を見取ること今後は求められます。

## アンケートの見方・考え方

- ・本校は少人数の学校です。PTA戸数も少なく、1名の意見が全体に大きく影響する特性がありますが、このアンケートではたとえ微差であっても増減として受け止めます。また、児童数の分母の変化により選択数は同じでも計算式の都合で下がってしまっている項目もあります。ここでは、特に低い項目（平均3以下）を取り上げ、改善策を示します。

## 2学期以降の改善策

### ★「言葉遣い・返事・挨拶」

- ・言葉遣いについて、教科領域で学びを深めること他、生活の仕方について学級で振り返る場を設定し、振り返ることにより概念化を図ります。また、問いかけに対して返事をする、毎日欠かさずあいさつをすること、誰に対しても粗野な言動にならないように相手意識をもって対応することに注意して支援していきます。

### ★「健康・安全」

- ・集団生活の中で、学習の中でも怪我につながる危険なことがあるかもしれないこと、遊びの中では友達との思いの違いで事故や怪我につながる可能性があること、自分の体調について関心をもち変化があれば担任や養護教諭に伝えること、持ち物や着用している服が自分の健康や安全を守ることにつながること等といった、学習や生活の約束・ルール・決まりや「自分の安全は自分で守る意識」の育成を目指し、学級指導を継続して行います。

### ★「メディアに触れる時間・読書に親しむ」

- ・引き続き「メディアにふれる時間」を生活リズムチェックや家庭と連携しながら適切な時間を設定していきます。
- ・児童自身が読書をする習慣を身に付けられるように読書に関する取組の実施や家庭との連携による読書時間の確保を図ります。
- ・「西小っ子のメディアにふれる時間について」のしおりを活用し、家庭と連携を図りながら継続的に指導していきます。児童に向けて全校でのメディアへの安全な使い方などの教室を実施することにより、具体的に理解し、主体的に改善する力を身に付けます。

### ★「自己肯定感の向上」

- ・昨年度は、①日々の授業において学級全体で認め合う風土の育成を図ること、②学級活動、児童会活動、各行事を通して、学級や学校の役に立っていることが意識されるようにすることを中心に指導してきました。その結果、「達成した」、「概ね達成した」と考える子が72%に上りました。しかし、一部の児童は自分のもつ力や「よさ」をなかなか認められない状況です。学校としては、それぞれの子にそれぞれの「よさ」があることを全職員が活動の端々で認め、褒め、励ますことを継続して行ってきました。
- ・そこで、他にも違ったアプローチとして、個別最適な学びを柱とし、「リーダーシップ育成で信頼されることによる自己有用感の向上」や「知的好奇心を満たすことによる満足感や達成感を味わわせる」といった学習や経験を積み重ねることにより、「生きる力」の育成を基盤に、前述の取組と併せて継続して指導していきます。